

## 戦争経験者による体験談

あいさつ

根岸座長

根岸でございます。今、ご紹介いただきましたように、小金井平和の日の策定の施策検討委員会の座長をさせていただきました。実は私は戦後の生まれで、太平洋戦争の記憶があるわけではありませんが、小金井市史の編さんをお手伝いさせていただいている関係で座長を務めさせていただきました。太平洋戦争から70年が経過して、戦争体験者が高齢化し、戦争の悲惨さを語る事が難しくなっており、戦争の記憶を風化させないために単にまた改めて平和の尊さ、戦争の悲惨さや平和についてさらに考えていく。これを目的としました小金井平和の日を、制定を含めて小金井市の平和施策のあり方について検討するために、小金井市平和施策検討委員会というものが設置されまして、今、登壇されていらっしゃる鴨下先生、永井先生、林先生に、戦後生まれの私が参加することになりました。式典の次第にも書かれておりますが、施策検討委員会は4月以降6月まで4回開催されまして、小金井の平和の日の策定、小金井の市の平和の施策についての検討を行い、市長に報告いたしました結果が、本日の式典に結実したわけです。特にここでは、平和の日の制定の経過を報告させていただきます。

策定を検討するために、まず小金井の太平洋戦争における被害の状況、また空襲の記録などを検討いたしました。実は記録に見える空襲というものは4回しか出てまいりません。昭和19年(1944)11月24日が最初の空襲の記録であります。ちょうど1ヶ月前の昭和19年10月24日にレイテ沖海戦で海軍の連合艦隊の主力がほとんど失われている。さらに25日には初めて特攻機が米艦に体当たりをする、そのような戦闘が始まりました10日前の11月14日に、東京は初めて空襲を受けました。以後、106回の空襲を記録の上では受けたことになっています。記録では、小金井が初めて空襲を受けたのは11月24日で、東京が初めて空襲を受けた10日後になります。警視庁の公式の記録ですと、この日は小金井ゴルフ場の前の道路に爆弾が1個落ちたということしか、出て参りません。爆撃の第一目標は、武蔵野・三鷹に所在した中島飛行場の工場や研究所でありました。このとき米軍は215トンの爆弾、焼夷弾を投下しまして、周辺では死者が73名、重軽傷者が84名出ています。特に隣の武蔵野市ではこの日を平和の日と制定しております。このときの空襲を鮮明に記録されておられる方もおられますし、また後でお話しもいただけるのではな

いかと思っております。

その後の公式記録では、12月3日、翌昭和20年（1945）1月9日に小金井町に爆弾が落ちたとありますが、その記録を見ますと、実は花小金井など小平のあたりに落ちており、小金井市内ではないようです。明確な小金井市内の空襲の記録は、昭和20年の1月27日武蔵小金井駅から西約300メートルの線路上に大型焼夷弾が1個落ちまして、線路を切断し枕木を消失させた。また電車が不通となりましたが、同日復旧したという警視庁の記録がございまして、実はこれだけで、この4回で公式な記録から小金井の空襲の記録は無くなっております。

ところで、空襲の中でもっとも著名な昭和20年3月10日の東京大空襲についての被害は、小金井としては記されておられません。けれども、東京大空襲の記憶はさきほどの黒井先生のお話にもありましたように、鮮明な記憶として多くの方々が持っておられ、後でお話いただけるかと思いますが、小金井に当時住んでいた方々の記憶にも深く刻まれたようですし、その後の始末に小金井の方々も動員されていくという意味では、小金井にとっても大きな問題であったと考えられます。

公式な記録、政府ですとか、東京都、警視庁などの記録はここで途絶えておりますけれども、小金井第一小学校の日誌を見ますと、以上の4回の空襲の後に、2月16日、17日、4月7日、4月12日、4月24日、4月29日、5月29日、6月11日、6月23日、7月30日、8月1日、2日と10回にわたる空襲が記録されております。この間に艦載機、空母から発信した戦闘機から機銃掃射を受けたという方々のお話、また爆弾が落ちたという話も聞いておりますが、公式記録には見えておられません。考えますと当時の公式記録というものは被害をなるべく過小に評価する傾向がみえ、人的な被害がなければほとんど報告はされない。そういうような形で、実態を示している内容とは言い切れない部分があります。公的な記録と、住んでいる方々や生きた方々の記憶との違い、記録と記憶の差というものは乖離する部分が大きく、その意味で、記憶にこそ当時を生きた方々の戦争の悲惨さを語り継ぐものとして、重視しなければいけないのではないかと思います。

このような記憶を、当時の米軍の空襲の傾向に照らし合わせますと、その意味はよりいっそう明確になると思います。現在の研究などでは、米軍の空襲というものは大きく3つの時期に分けられているといわれています。第1期は、昭和19年11月から昭和20年の3月の初めくらいまで、つまり東京大空襲の前までです。このときの米軍の作戦は、昼間比較的高いところから軍需工場などを標的とした攻撃をするというのが第1期の特徴であります。第2期、昭和20年の3月10日から6月の半ばま

では、夜間に前よりも低い位置から大都市を焼夷弾などで焼き払うということが行われ、そうした中で最も象徴的なものが東京大空襲でありました。第3期、6月半ばから8月まで、今度は、地方の中小都市を焼き打ちする、焼き払うというように被害が全国に広がるというように、3つの時期に分かれております。一方で昭和20年2月から3月にかけて、ちょうど硫黄島を米軍が攻撃しているとき、そこに空母が集まってくる。その空母から発進しました戦闘機が本土にやってきました機銃掃射を無差別に行っていく。特に6月から8月までは中小の都市が狙われるだけではなく、飛び回る戦闘機の機銃掃射で多くの方が命を失われているというようなことがあります。機銃掃射に狙われたお話もこれからも語られるかと思えますけれども、そのような人々の記憶こそ、公式的な記録にはありませんけれども、問題にしなければならないことだと思っています。もちろん70年の時間を過ぎて失われたものや記憶違いなどもあるとおもいますが、それは次第に風化してしまうものでもあり、その記憶をいま語り継ぎ記録しておくことが、後世に残す資料として重要になってきます。だからこそこのような機会が現在いっそう必要になってくると思います。

ところで、小金井平和の日の策定の検討委員会におきましては、それを語り継ぐ記念の日をどこに設定するかが、まず大きな検討課題となりました。そうした中で、例えば初めて空襲があり、その記憶を鮮明にされている方々もおられる昭和19年の11月24日にははどうだろうかという検討もなされました。実は、戦後になりましたから小金井町は、小金井町戦没者慰霊碑を建設して平和への思いを込め、現在でもそれを引き継いでおります。その後第1回の慰霊祭が行われました昭和28年の11月20日も、平和の日の候補として検討にのせておりました。しかし、当時の方々の記憶に東京大空襲が深く刻まれている。これからお話していただける委員の先生の方々の記憶からもそれは鮮明です。また今までたびたび小金井市は戦争の悲惨さを語り継ぐ文集を作っておりますが、その中でも東京大空襲の記憶に関する文章が多く載せられています。小金井は戦後人口が増えて参りましたけれども、戦後の移り住んだ方々の記憶にも東京大空襲が深く刻まれているということが文集に散見されます。そうした中で、東京大空襲が小金井のかつて住んでいた方にも現在の住民の方にも決して無縁ではない。また先ほどお話しましたように1期から2期へというような以後の空襲の変化の契機となっており、さまざまな戦争の悲惨さの記憶を語りつぐための意義も大きいのではないかと。特に先ほど申しましたように、記憶と記録は乖離している。記録というものは残りますが、記憶は風化してしまう。この記憶を風化させないための施策をどうしたらいいのかということを考えながら、平和への思いを込めまして、

委員会では3月10日を小金井平和の日といたしました。

以上、委員会で出ましたさまざまなご意見や重要なご指摘を付度いたしまして、特に小金井の空襲の記録については、市役所広報秘書課の方々が尽力され収集された資料をもとに、私個人でまとめて付け加えましたが、以上が小金井市平和施策検討委員会の課題の報告です。黒井先生のお話にもありましたように、これを契機に平和を前進させるためにはどうしたらよいか、それを今後考えていなければいけない。特に戦争の記憶を風化させることなく、この制定を契機にしまして小金井のなかで特に若い方たちが平和を語り継ぎ、平和を考え、平和を前進させていくことを期待するとともに、このような機会に少しでも微力ながらご協力できましたことを、平和を心から願い前進させていただきたいと考えているものの1人として光栄に存じます。ありがとうございました。